

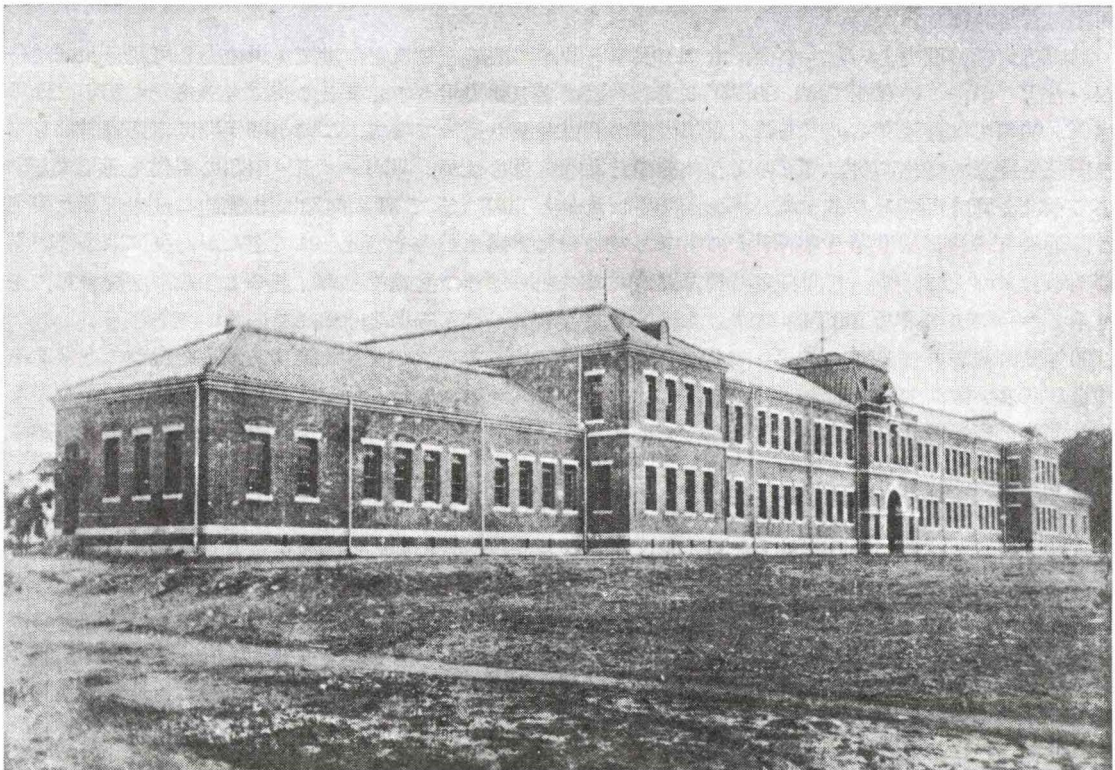
Title	京大広報 No. 142
Author(s)	
Citation	京大広報 (1977), 142: 647-656
Issue Date	1977-06-15
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/209549">http://hdl.handle.net/2433/209549</a>
Right	ファイル中には未許諾による非表示部あり.
Type	Others
Textversion	publisher

# 京大広報

No. 142

京都大学広報委員会

## 創立80周年記念



創立期の京都大学本部本館

(旧第三高等学校吉田学舎本校建物<講談社提供>)

### 目次

創立80年を迎えて

総長 岡本道雄……2

グラフで見る本学80年……2

<随想>

(創立期の京大) 夏期講習会の思い出

名誉教授 貝塚茂樹……4

(戦時下の京大) 戦時中研究の思い出

名誉教授 桜田一郎……5

(戦後の京大) くすのくりごと

名誉教授 久米直之……6

略年表……7

分限処分の審議経過(4)……8

旬年史料委員会について……8

『京都大学建築80年のあゆみ』の刊行……9

日誌・計報……10

## 創立80年を迎えて

総 長 岡 本 道 雄

京都大学は、明治30年（1897年）6月18日に誕生、本年は創立80周年ということになる。

さきに昭和42年、70周年記念式典が行なわれ、記念事業として、総合体育館、海外学術研究交流に対する補助制度が設けられ、近く京大会館楽友会が生れようとしている。

それから10年経った80周年ということになると、さしづめ昭和43年から始まったいわゆる京大紛争をぬきにしては考えられない時期である。しかし、この紛争は京大の歴史として語るには余りにも新しく、なお今日的なものとも言うべく、現時点においてその意味と歴史的位置づけを明確に語ることは不可能と言わねばならない。

およそ大学の歴史というものは、欧米の大学と並べて語るとなると、世紀を単位として語らねばならないと思うが、この意味では、80周年は来るべき創立100周年への心構えの時でもあろう。70年では早過ぎ、90年では遅過ぎるのである。京都大学の歴史を振り返ってみて、この100年間に京都大学は日本の国家・社会の文化に対してどのような機能と役割を果たしたか、明治・大正・昭和の時代を通じてどのような社会的分野にどのような人材を送り出したか。京都大学で個人的又は組織的に進められた研究は、近代日本および世界の学術研究の中でどのような評価と資格を与えられてきたか、更には京都大学は他の日本の大学、ひいては日本の教育機構の中でどのような位置を占め、どのような役割を果たしてきたか。——やがて来る100周年の時、これらの諸点が深く省みられなければならないであろう。

20年後の初夏の祭典で、私どもは上述の諸点について、あるいは大きな誇りと満足を持つこともあろうし、あるいは深刻な悔恨と反省を感じることもあるかも知れない。大学というからには、50年を経ないと定着した学風といったものは育たないし、また一旦定着した方向の修正には、20年や30年はかかると思う。

このように思うと、世界的にみてなお若く、世紀単位でなお一才に満たない成長期にある京都大学を今日構成している私どもにとって、80周年を迎えることの意味と責任の重いことを感じるのである。

今日京都大学は、漸く静謐をとりもどし、人文社会科学・自然科学のあらゆる領域で、何れかと言うと基礎的なものに本来の特徴を持ちつつ研究が進められており、その成果は、大きく学界の評価を受けている。海外との学術交流も盛んである。学生の研修の実もあがっていると考えたい。

しかし、大学としては大きい問題をかかえ、緊張の中にあると言わざるを得ない。京都大学がその歴史の中で本当の大学の確立のために果たして来た役割の延長上にあつて、なお肯定しうる判断に立ちたいと念じているが、その複雑な激動の渦中にあつて80周年を迎え、京都大学の創設の心の豊かな発展を希い、遥か吉田村の昔を想うのである。

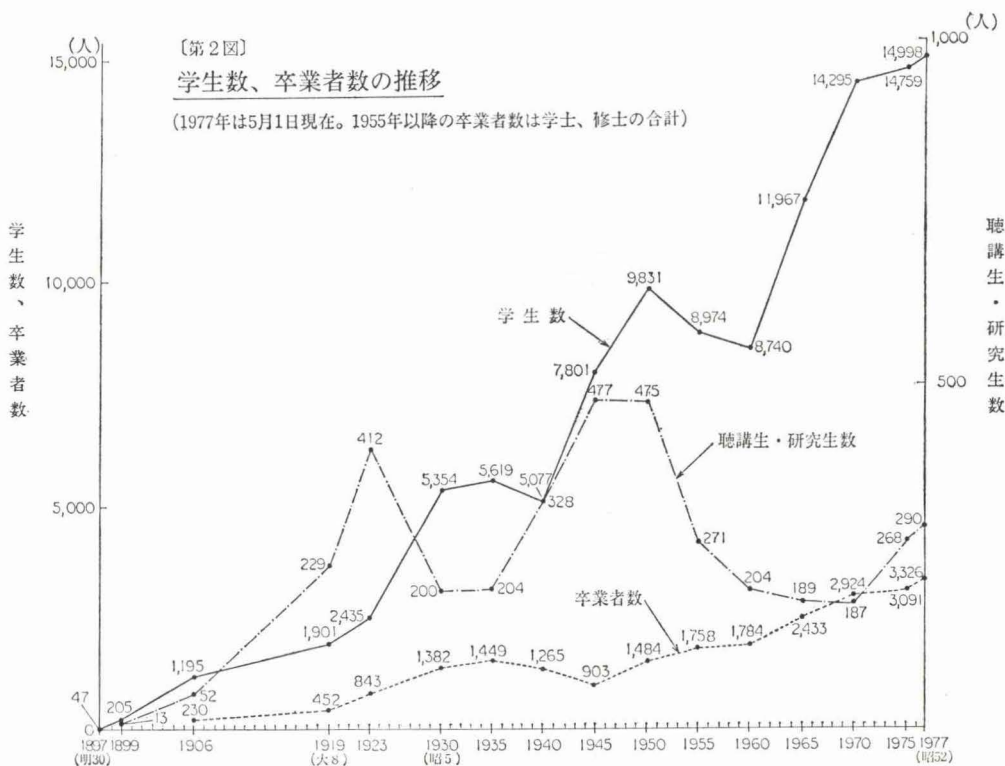
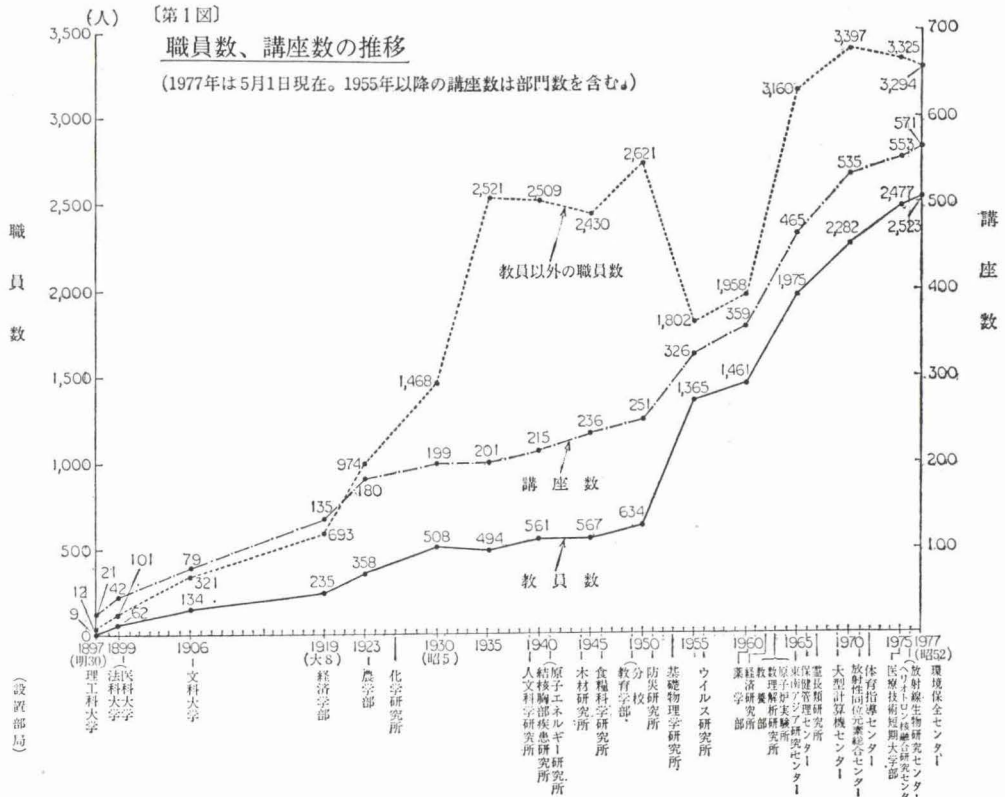
「学校から南、目をさえぎるものは、織物工場の建物と熊野神社の森。神楽坂以南は一面の茄子畑、春は万頃の黄すべて菜種であり、冬は校長官舎の池に鴨が下りたという。北西は百万遍鐘紡工場あるかなきかの田中村の果には北山が潤々と見晴るかされ、麦の一、二寸のびる頃には、雲雀の声が長閑に教室の生徒の眠りを誘っていた」（『神陵小史』より）。

## グラフで見る本学80年

1897年(明治30年)創立当時から現在に至る80年

間の本学職員数、講座数、学生数、卒業者数および建物・敷地面積の推移の概況をグラフで表わすと第1図から第3図のようになっている。











## 略 年 表

(〔 〕 は一般的事項)

年 月	事 項	年 月	事 項
1886(明19) 3	〔帝国大学令〕	1938(昭13) 4	〔国家総動員法〕
1894(明27) 8	〔日清戦争起こる〕	7	工学部長平野正雄, 総長事務取扱を兼任
1897(明30) 6	京都帝国大学創設, 木下廣次, 初代総長に就任	11	文学部教授羽田亨, 総長に就任
9	理工科大学設置, 第1回学生宣誓式举行	1939(昭14) 5	臨時附属医学専門部設置
1899(明32) 9	法科大学・医科大学設置	8	人文科学研究所設置
12	附属図書館設置, 医科大学附属医院設置	9	〔第2次世界大戦起こる〕
1903(明36) 4	医科大学を京都医科大学と改称	1940(昭15) 1	学旗および学歌制定
1904(明37) 2	〔日露戦争起こる〕	1941(昭16) 3	結核研究所設置
1906(明39) 9	文科大学設置	11	工学研究所設置
1907(明40) 7	理工科大学長久原躬弦, 総長事務取扱を兼任	12	〔太平洋戦争起こる〕
10	岡田良平, 総長に就任	1943(昭18) 10	〔学生・生徒の徴兵猶予の停止〕
1908(明41) 7	岡田総長の次官就任により, 本学総長を兼任	11	出陣学徒壮行式
9	菊池大麓, 総長に就任	12	「京都帝国大学史」出版
1911(明44) 3	京都医科大学を医科大学と改称	1944(昭19) 5	木材研究所設置
1912(明45) 5	理工科大学長久原躬弦, 総長に就任	8	〔学徒勤労令の公布〕
1913(大2) 5	澤柳政太郎, 総長に就任	1945(昭20) 8	〔太平洋戦争終わる〕
7	澤柳総長, 7教授に辞表の提出を求める(澤柳事件)	9	原子爆弾総合調査団, 広島県で遭難
1914(大3) 4	医科大学長荒木寅三郎, 総長事務取扱を兼任	11	工学部教授鳥養利三郎, 総長に就任
7	理工科大学は工科大学と理科大学に分離〔第1次世界大戦起こる〕	1946(昭21) 9	食糧科学研究所設置
8	東京帝国大学総長山川健次郎, 本学総長を兼任	11	〔日本国憲法の公布〕
1915(大4) 6	医科大学長荒木寅三郎, 総長に就任	1947(昭22) 3	〔教育基本法・学校教育法の公布〕
1919(大8) 2	分科大学を学部へ改称	10	京都帝国大学を京都大学と改称, 創立50周年記念祝賀式典, 〔国家公務員法の公布〕
5	経済学部設置	1949(昭24) 1	〔教育公務員特例法の公布〕
1920(大9) 1	〔国際連盟発足〕	4	人文科学研究所に「東方文化研究所」と「西洋文化研究所」とを統合
1922(大11) 6	創立25周年記念式	5	〔国立学校設置法の公布〕
1923(大12) 9	〔関東大震災〕		新制京都大学設置, 教育学部設置, 分校設置, 第三高等学校・附属医学専門部を包括, 京大看護婦の採用につき紛争起こる
11	農学部設置	6	〔朝鮮戦争起こる〕
1924(大13) 5	農学部附属農場, 同演習林設置	11	理学部教授湯川秀樹, ノーベル物理学賞受賞
1925(大14) 2	本部本館竣工	1950(昭25) 3	第三高等学校廃止
12	京都学連事件	5	宇治分校の開校
1926(大15) 10	化学研究所設置	11	前進座の公演をめぐり学生, 警察と対立
1928(昭3) 4	河上肇教授辞職	1951(昭26) 4	防災研究所設置
1929(昭4) 3	理学部教授新城新蔵, 総長に就任	11	医学部教授服部峻治郎, 学長に就任, 天皇本学ご訪問, その際, 騒ぎ起こる
5	化学研究所, 大阪府三島郡に移転	1952(昭27) 3	附属医学専門部廃止
1931(昭6) 9	〔満州事変起こる〕	1953(昭28) 4	新制大学院設置(8研究科設置)
1933(昭8) 3	文学部教授小西重直, 総長に就任	8	基礎物理学研究所設置
5	滝川幸辰教授休職を命ぜられる(滝川事件)	11	荒神橋にて学生, 警官と衝突
6	経済学部長山本美越乃, 総長事務取扱を兼任	12	法学部教授滝川幸辰, 学長に就任
7	理学部教授松井元興, 総長に就任	1954(昭29) 4	分校を教養部と改称(学内措置)
1937(昭12) 6	文学部教授濱田耕作, 総長に就任	6	学長を総長と改称
7	〔日華事変起こる〕	1955(昭30) 4	新制大学院医学研究科設置
		6	滝川総長への暴行事件



年 月	事 項	年 月	事 項
1956(昭31) 4	ウイルス研究所設置	1971(昭46) 3	医学部附属病院の新病棟への移転
5	教育学部、熊野構内に移転	4	工学研究所を原子エネルギー研究所と改称、放射性同位元素総合センター設置
10	〔大学設置基準の制定〕	1972(昭47) 3	総合体育館および附属プール竣工
12	〔国際連合に加盟〕	4	廃棄物処理等専門委員会設置
1957(昭32) 12	医学部教授平澤興、総長に就任	5	体育指導センター設置、〔テルアビブ空港事件〕
1960(昭35) 4	薬学部設置	7	教育学部教授会、教育実習オリエンテーションにかかる差別問題について声明を発表
1961(昭36) 5	宇治分校廃止、工業教員養成所設置	9	大学問題検討委員会、「大学の未来像について」答申
1962(昭37) 4	経済研究所設置	11	前田総長、有害物質の排出に関して声明を発表
1963(昭38) 1	東南アジア研究センター設置〔学内措置〕	1973(昭48) 1	評議会、経済学部竹本信弘助手の分限処分
4	教養部設置、数理解析研究所設置、原子炉実験所設置	2	の審査を開始、同問題委員会設置
12	農学部教授奥田東、総長に就任	6	大学院制度検討委員会設置
1965(昭40) 3	教育学部、本部構内に移転	6	大学問題検討委員会、「総長選挙制度の改正について」答申
4	東南アジア研究センター設置	7	大学問題検討委員会廃止
1966(昭41) 4	保健管理センター設置	10	総長選考基準の改正
6	工学研究所、宇治構内に移転	12	医学部教授岡本道雄、総長に就任
1967(昭42) 6	霊長類研究所設置、結核研究所を結核胸部疾患研究所と改称、奥田総長、「自衛官の入学」について見解を表明	評議会、経済学部竹本信弘助手の分限処分の審査の休止を了承	
11	創立70周年記念式典、「京都大学七十年史」出版	1974(昭49) 6	〔大学院設置基準の制定〕
1968(昭43) 2	〔学園紛争起こる〕	10	部局長会議、参議院文教委員会の調査について基本的見解を確認
5	化学研究所、宇治構内に移転	1975(昭50) 3	大学院制度検討委員会、「大学院制度の改革について」答申
1969(昭44) 1	奥田総長、「学生部の封鎖の事態」について所信表明	4	医療技術短期大学部設置
4	大型計算機センター設置	1976(昭51) 5	ヘリオトロン核融合研究センター設置、放射線生物研究センター設置、大学院制度検討委員会、「大学院に関する諸規程の改正について」答申
5	京大広報第1号発行	6	大学院の管理運営に関する規程等の制定
6	大学問題検討委員会設置	1977(昭52) 2	評議会、経済学部竹本信弘助手の分限処分の審査を再開
8	〔大学の運営に関する臨時措置法の公布〕	3	大学院制度検討委員会廃止
9	警察力の導入により時計塔等の封鎖を解除	4	環境保全センター設置、環境保全委員会設置
12	工学部教授前田敏男、総長に就任		
1970(昭45) 1	大学問題検討委員会、「教養課程の改善について」答申		
3	工業教員養成所廃止		
5	防災研究所、宇治構内に移転		
9	食糧科学研究所、宇治構内に移転		

## ＜大学の動き＞

### 分限処分の審議経過（4）

本学経済学部竹本信弘助手の分限処分の審査については、5月31日開催の評議会において参考人（竹本信弘助手の夫人竹本富美子さん）の陳述を得、6月7日開催の評議会において陳述内容につ

いて慎重な審議を行ないました。

また、他の参考人の要請も含め慎重に審議検討の結果、今回を以て参考人の問題は終了することとなりました。

昭和52年6月7日

京都大学総長 岡 本 道 雄

### 旬年史料委員会について

（委員会の目的）京都大学旬年史料委員会は、

昭和51年7月21日同要項が部局長会議の議を経て総長裁定され、昭和51年9月6日発足したものである。

この委員会は「京都大学七十年史」刊行後の本学関係史料を収集・整理し、旬年史料を編集することを目的とするものである。(1)注意すべきことは、旬年史をつくることではないこと。(2)将来、ふりかえって京都大学の歴史をまとめる必要が生じた場合に、そのよりどころとなる史料をあつめておくことにつぎること。このことは、七十年史を編纂する際に、よるべき史料が分散し、その収集・整理に多大の困難を感じたという体験に基づくものである。

(史料の選択) 将来いろいろの角度からこの史料は利用されると思うので、どの史料を選択・保存すべきかということについて、今時点の担当者の主観をできるだけ排除することが必要であるというのが委員会の見解である。しかしそのことに充分に対処しようとするれば、できるだけ広い範囲にわたって収集・整理することが要求されてくるが、それにもおのずから限界がある。その点が今後の進展につれて困難な問題点となろう。つまり、将来利用され保存されやすいためには、今日の作業を可能で効率的な規模にとどめておくこともやむをえないが、反面選択することによって、それからもれたものが後に入用となっても困るからである。

(委員会の構成) 委員会は、学部・教養部の長またはそれに代わる教授、若干の研究所長またはそれに代わる教授、附属図書館長、事務局長、学生部長などから構成されており、その委員長には林良平附属図書館長、副委員長には溝畑 茂前理学科長が選出され、その事務は附属図書館事務部があたることになった。この委員会は、すでに三回開かれているが、そこではこの事業の基本方針を定め、実際の活動は各部局や小委員会に委ねるのが妥当であるとの意見が大勢をしめたので、委

員会では編集の大綱を定めるだけにとどめた。

(作業の連絡調整) このようにして、実際の活動は各部局などに委ねられ、ある程度自主的に行なわれることになったが、なるべくその間の連絡調整をはかって、ひいては、それぞれの部局の資料の相互の利用の便宜をはかりたいと考えて、そのための連絡委員会を設けている。

本部、学生部、附属図書館ならびに全学的事項を扱ういわば総記にあたる部分の連絡調整のため、別に専門委員を総長より委嘱し、史料委員会の委員若干名と共に専門委員連絡委員会を構成し(委員長 林附属図書館長、副委員長 高村仁一工学部教授)、またその他の部局間の連絡をはかるため、各部局から部局委員を選出してもらい、その委員と史料委員会委員若干名で部局委員連絡委員会(委員長 林附属図書館長、副委員長 富田和久理学科教授)を設けている。両者とも二、三回開催され、連絡調整にあたっている。

(作業の進展) 今日の段階では、母体となる各部局で編年体で部局の推移をとらえることに専念しているが、それがあらかた完了するのに今少し日時を要するようである。この作業が一段落すれば、それらの事項にかかわる史料の選択、所在の確認を行ないたいと考えている。できれば今年度内に終えたい(対象は本年度中までの史料としていたので)が、種々の事情で進行が予定より少しおくれて来ているので、少し急がねばと考えている。全学関係各位の御協力を改めてお願いする次第である。

なお各委員会は、統一を欠くことのないように委員長を共通にしたが、各委員会の運営については副委員長に多大の御援助をいただいている。

(委員長 林 良 平)

## 『京都大学建築80年のあゆみ』の刊行

このたび京大広報別刷として『京都大学建築80年のあゆみ』が刊行される。本書は、本学キャンパス全般にわたる諸建築の歴史を概観し、あわせて歴史的建築物の保存への判断資料とすることを

目的としている。本書は、通常の京大広報とは配布の仕方を異にし、本学図書館、各部局図書室等、特定の場所に備え付けられる予定である。

本学は創設以来80年、第三高等学校創設以来90年を超す歴史を有し、キャンパス内には諸部局の創設とその発展を記念するにふさわしい建築物

が見られる。その中には、文化財保護法により名勝指定を受けている「清風荘」、あるいは旧石油化学教室建物、本部正門等明治・大正・昭和初期にかけての大学固有の歴史的建築物があり、今後の本学発展のためにも、その保存と開発の調和が新しい課題となってきた。

本学建築委員会では、昭和49年12月に「歴史的建築物保存調査専門委員会」（委員長 横尾義貫工学部教授）を発足させ、これら歴史的建築物の保存に関する調査研究を委嘱してきた。

この『京都大学建築80年のあゆみ』は、工学部建築学教室建築史研究室が中心となり、本学の歴史的建築物に関する調査・研究及び原稿執筆・編集が行なわれ、上記専門委員会に取りまとめられたものである。内容は、以下の各章から成っている。

る。

## 第1章 京都大学キャンパスと周辺地域の前史

### 第2章 京都大学キャンパスの誕生

(1)第三高等学校の創立 (2)京都帝国大学の創立

### 第3章 京都大学キャンパスの変遷

(1)変遷の概要 (2)営繕組織と建築物 (3)本部構内の変遷 (4)医学部構内の変遷 (5)病院構内の変遷 (6)北部構内の変遷 (7)南部構内の変遷 (8)西部構内、その他構内の変遷 (9)建築意匠の変遷

### 第4章 京都大学キャンパスの未来

(1)歴史的環境の評価 (2)歴史的環境再生の手法 (3)歴史的環境の未来

## 日 誌

(1977年5月1日～5月31日)

5月7日	インド国駐日大使館参事 A. N. Ram 氏文学部を訪問	授 Murray. Wolfson 氏経済学部を訪問し講演
10日	評議会	20日 フランス国マルセイユ大学医学部長Maurice Toga 氏外19名医学部及び附属病院訪問
11日	安全委員会	21日 ソビエト連邦共和国国立モスクワ国際関係大学学長補佐アナトーリー・V・トルタノフ氏外1名工学部を訪問
12日	フィリピン国東方大学経済学部教授 Gregorio, S. Milanda 氏東南アジア研究センターを訪問	24日 評議会
17日	評議会	27日 フランス国ボルドー第三大学教授G.Dupeux 氏人文科学研究所で講演
〃	環境保全委員会	30日 学位授与式
20日	同和問題委員会	31日 評議会
〃	木材研究所公開講演会	
〃	アメリカ合衆国オレゴン州立大学経済学部教	

## 訃 報

5月13日 橋本傳左衛門名誉教授（元農学部教授）逝去

25日 有賀鉄太郎名誉教授（元文学部教授）逝去

### 創立記念日行事講演会の開催時刻変更

創立記念日行事の江崎玲於奈氏の講演会は、開催時刻を午後3時に変更いたします。

(学生部)